

令和2年度 新庄村立新庄小学校 学校評価(自己・学校関係者)評価書

評価	A：期待以上	【目標を達成した】
	B：ほぼ期待通り	【おおむね目標を達成した】
	C：やや期待を下回る	【あまり目標を達成できなかった】
	D：改善を要する	【目標を達成できなかった】

自己評価			学校関係者評価		
項目	評価	分析・改善の方策等	項目	評価	自己評価に対する意見等
教育全般	B	「学校へ行くのが(あまり)楽しくない」「(あまり)楽しくないと言っている」と回答している児童・保護者の割合が微増している。Aが100%となるように、子ども・保護者の方とのコミュニケーションを絶やさず小さな変化も見逃さず対処できるように努めていく。 今後も、小中一貫教育校のよさや成果を積極的に発信し、保護者・地域の方と協力してよりよい教育を目指していく。 また、「学校は授業を工夫しているか」「学校では子どもの話をよく聞いているか」「学校行事の工夫をしているか」等について、分からないと回答している保護者の割合が高い。授業参観や懇談、お便りなどの機会を捉えて、教育活動のねらいや取り組みの様子を伝えていくように努めたい。	教育全般	B	教職員の自己評価が低いように思う。高い目標イメージをもって、現実を厳しく捉えていると理解している。 授業をする職員も、しない職員も同じように教育目標やめざす子どものイメージに対して自己評価をしてもらいたい。(設問の工夫や、調査への説明を工夫したらどうか)
授業改善	B	「学習内容がよくわからない」と答える児童の割合は減少している。しかし、「学習内容をあまり理解していない」と答える保護者の割合は微増している。どちらも0%になることを目指さねばならない。 これからの時代を生きる子どもたちに欠かせない「表現する力」「話し合う力」を身につけていけるよう授業での活動を充実させていく。	学習指導	A	学校から学習についてのお知らせを増やすなど、保護者への伝達を工夫してもらいたい。 「家庭学習は分からない」については、放課後子ども教室で宿題をして帰るので、よくわからないという保護者の声を聞く。学校からの発信などをきっかけとして、家庭でも会話できるようなことが必要なのではないか。 筆箱に筆記用具がそろっていない実態があり、そろっていても知らない保護者もいる。 工夫して楽しい授業をしている。しかし、授業者が伝えることに一生懸命で、子どもの小さな発言を見逃さぬように心がけてほしい。
学習評価	A	おおむね良好で学習評価は適切だととらえられている(肯定的回答100%)。新しい評価の観点が実施されており、引き続き評価について研修を行い、保護者によりわかりやすく伝えていくように努める。			
家庭学習の充実	B	多くの児童がBと回答しており、することはしているが自信をもって充実できているとは言いがたい。保護者では、AやCの回答が増え、二極化する兆しが見受けられる。 授業と家庭学習のリンクを工夫し、家庭とさらに連携して、家庭学習習慣の定着を図る必要がある。			
体験的学習	A	「ふるさと新庄学」など地域を中心にした活動に力を入れている。小中の接続を意識して9年間で身につける力を明確にし、よりよいものにしていくようにする。 また、活動の意義が保護者に十分伝わってない状況も明らかになっている。			
特別活動	A	学校行事については高評価である。児童にとって「小中合同のよさがある」、保護者にとって「活躍できる工夫している」と考えている割合が増加している。			
規律・生活習慣	C	あいさつについては「できている」と答えた児童・保護者が85%以上いる。(地域に出た時の様子はどうか。)はきものをそろえる、姿勢を正して学習することが引き続きの課題となっている。 家庭と学校とで歩調を合わせ、自然にできるようになるまで指導していく必要がある。	生徒指導	B	村外から来られた方が、新庄の子がよく挨拶してくれたと言っている。一方、おとなしい児童も多いようで、自信をもてるようにしたい。(あいさつをもっと元気にしてほしい。) 教室での発言の声が小さい。大きな声での発言がほしい。相手に伝わらないとか、こんなことを言っても聞いてもらえない、分かってもらえないという、自分の意見を発信することへの不安があるのではないか。学校でも家庭でも子どもの声に耳を傾け、安心感や自信をもたせていきたい。 これからも教育相談等で、小さな時期からいじめのサインを見逃さないようにしてもらいたい。
共感的な集団作り	B	普段から子どもと積極的にかかわり、良いところを見つけ、認め合う風土がいじめなど諸問題が起きにくくなる基盤であり、引き続き子どもたちと積極的にかかわりをもつように務める。			
教育相談	B	肯定的な回答をした児童の割合は高いものの、確実に「そう思う」と回答した割合は減少している。アンケート調査、いろいろな形態での教育相談日の設定などに取り組んでいることに加えて、日頃から子どもの様子をよく見て小さなサインを見逃さないようにしていく。			
いじめ防止	B	いじめ対策に関しては、保護者に対しても児童に対しても取組が見えにくいようである。PTA総会や懇談等の機会を捉えて学校の考えを周知していくとともに、日頃から子どもの様子をよく見て小さなサインを見逃さず対処していく。			
保健・安全指導	B	校内や登下校時の安全についての考えは肯定的な回答がほとんどである。しかし、「苦手なことでも頑張る」ことに否定的な回答をした児童も多い。(15%)少々の壁にあたって乗り越えようとする「たくましさ」を身につけられるよう意識した指導をしていく。	保健・安全指導	B	登下校は並んでできており、あいさつもよくできている。右端を歩いていない子どもも見受けられる。
家庭・地域連携	A	ほめる(認める)こと、叱る(指導)ことは子どもの成長(人格形成)にとっても大きく関わる。学校でもよいことはしっかりほめ、良くない行動は毅然とした指導をするようにしている。地域連携は良くできている。	家庭・地域連携	A	村外から来られた方(Iターン者)への言葉かけが気になることがあった。